

県立大は9日から、「遊び」を活用した体験実習を行う「薫風・満天フィールド交流塾」を開く。農地を整備して村を開き、いぶりがっこやきりたんぼ作りに挑戦する。自然とのふれあいを通じて学生の行動力や社会性を養う。

交流塾の拠点は同大の大潟キャンパスに置くが、秋田、本荘の両キャンパスの学生も参加できる。学生が自ら取り組みたい「遊び」を提案し、教職員らで構成する運営チームが随時、協議して内容を定める。

1回目の9日は男鹿市の北浦港で季節ハタハタ漁を見学。来年1月以降は、かまくら作りやクロスカントリーなどを行う。このほか、学生が

県立大

かまくら作りやクロスカントリー

「遊び」活用 体験実習

らは、農家との共同生活、気球からの自然観察、ログハウス作りなどの提案が出ている。

塾長の露崎浩・准教授（雑草学）は「社会性が欠けた学生が増えていくのは、遊びの不足が原因の一つ。地域や自然との交流を深めて行動力や創造力を身につけてほしい」と話している。

この取り組みは、文部科学省の「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」に選定され、今年度から4年間に計約1億円が助成される。

2007.12.8 読売新聞